

令和4年度 第3回 学校運営協議会 議事録

校名	大阪府立とりかい高等支援学校
校長名	松村 高志

開催日時	令和5年3月2日(木) 15:30~17:00
開催場所	大阪府立とりかい高等支援学校 図書室
出席者(委員)	A委員、B委員、C委員、D委員、E委員、F委員
出席者(学校)	校長、教頭、事務長、首席A、首席B、 教務主任、生徒指導主事、保健主事、進路指導主事、地域支援部長
傍聴者	0名
協議資料	• 本日のレジメ(次第) • 学校運営協議会 委員名簿 • 学校運営協議会 事務局名簿 • 令和4年度「学校経営計画および学校評価」 • 令和5年度「学校経営計画および学校評価」 • 第2回 授業参観週間(12月)保護者アンケート • 学校祭(11月)来場者アンケート • 令和4年度3年生(8期生)進路先一覧(配付後回収)

議題等(次第順)

- 令和4年度「学校経営計画および学校評価」について
- 令和5年度「学校経営計画および学校評価」について
- 第2回 授業参観週間(12月)保護者アンケートについて
- 学校祭(11月)来場者アンケートについて
- 令和4年度3年生(8期生)進路状況について
- その他、質疑応答

・令和４年度「学校経営計画および学校評価」について

【校長】

１－（４）「１人１台端末の活用」について、多くの授業で実践した１年であった。

２－（１）「教職員の指導力、授業力の向上」（２）「教職員の資質の向上」について、力を入れた。

３－（１）「地域との連携」（２）「本校の広報活動」について、令和４年度入学者選抜は定員割れであったため、今年度は広報をしっかりとしたいとの思いで臨んだ。本校の教育活動が伝わるように、中学校等教員対象の説明会を２回行った。今回の入学者選抜は「1.28倍」であった。

４－（１）「ワークライフバランス」について、結果として月に８０時間を超える時間外在校時間の教員が１人（１回）いた。広報担当者の業務が多かった。それが今回の入学者選抜の倍率「1.28倍」につながったのかもしれない。全体でどうカバーするのが課題である。

経営計画は達成していない部分もあるが、全体としては概ね上回っていると思っている。△の部分は来年度に達成できるようにする。防災の在り方について周知していきたい。

【Ｂ委員】

３－（３）「防災」について、避難訓練は年間何回行ったか。摂津市との連携、地域（鳥飼上地区）との合同防災訓練をするのはどうだろうか。自治会としては、学校が避難所になっているが、一度も訓練したことがない。学校の鍵を預かっているが、校内に入ったこともない。

【生徒指導主事】

火災避難訓練を１回、地震・津波避難訓練を２回実施した。１年生は災害時の保護者引き渡し訓練も行った。本日、Ｃ委員には、協議会終了後に、今後の自治会との連携について相談したいと考えていた。

【校長】

合同訓練については校内で検討したい。避難場所である体育館の見学は是非してもらいたい。

【Ｄ委員】

令和４年度入学者選抜は定員割れで、今回は４１名の受験者と増えたことは、先生方の努力が実ったのだと思う。

３月１３日からのマスクの取り扱いについて政府の方針が打ち出されているが、１・２年生の３月２０日の修了式までは、学校としてどのような対応をするのか。

【校長】

大阪府からの通知があり、マスクなしの学校生活を基本とするが、生徒本人、保護者の意向を尊重したいと考えている。

【Ｅ委員】

２－（３）「経験の少ない教員への対応」について、５４．８％と厳しめの数値をどう捉えているか？

【校 長】

質問は「学校全体で育成する体制が整っている」であり、「学校全体で」の部分はどう評価するか、難しい面があるのかもしれない。新転任者向けの研修や首席等による人材育成、サポートは丁寧に行っていると見ている。

【地域支援部長】

研修担当の分掌として、初任者、転任者、支援学校が初めての教職員に対して、年度初めに多くの研修を実施している。

【首席A】

自分の隣の席は、偶然にも初任者である。日ごろから各種の相談を受けたり、休憩時間に他愛のない話をしたりするなどして、孤立感や不安感を感じないようにサポートをしているつもりである。他の教員へのサポートも同様に広く行っていきたい。

【E委員】

「生徒の障がい理解」について、生徒 92.3%と高く、保護者は 84.7%とやや低い。どう捉えているか。

【首席A】

質問は、生徒には「先生は自分のことをよく理解してくれている」、保護者には「教職員は子どもの障がいを理解している」であり、保護者は「教職員全体」として回答するのか、「担任」に限定して回答するのか悩むかもしれない。無回答も 5 件と多いことも数値の低さに影響しているかもしれない。また、生徒が学校で見せる顔と、家庭で見せる顔には違いがある場合には、子の成長や変化を保護者がつかみにくいこともあるだろう。教職員は日々の連絡帳や懇談時に、具体的なエピソードを交えた伝え方を意識し、生徒の成長を保護者と一緒に共有することが重要ではないだろうか。

【F委員】

先生方に対して、子どもが感じているより、親は厳しく回答しているかもしれないと反省している。親は細かいことまで学校に求めることがあるが、子どもは学校に満足している。親はどうしても「もの足りない」と思うってしまうのかもしれない。実際に先生方はよくやっているといると思うが、小、中、高と自立に向けて段々と支援が減っていく現実を親が受け入れられない部分があるのかもしれない。親も子の成長に合わせて、変わっていかねばいけないと思う。

【教 頭】

本校は校区が府内全域で、多様な環境、いろいろな立場の生徒、保護者がいる。厳しい目で学校を評価する方もいることは十分にあり得る。学校の合理的配慮等について、生徒、保護者のニーズを十分に把握できていない部分があるとすれば、丁寧に拾っていくことが必要だろう。

【B委員】

SC（スクールカウンセラー）の活用をされているが、「インターネット」「SNS」等に関する相談はあるか。

【校 長】

毎年始めには、生徒はトラブルにつながるリスクを「知らず」に「気づかず」に、写真をアップしてしまう。12月には「SNS」に関する授業や職員研修も行った。

【生徒指導主事】

教職員は生徒のSNSには気づきにくい。トラブルが起きてから、生徒による情報提供や相談により事実がわかることが多い。情報提供者を守ることも、トラブルに関わる生徒への指導も丁寧に行っていきたい。

・令和5年度「学校経営計画および学校評価」について

【校 長】

4-1(1)「校務の効率化による働き方改革」に「校務運営の効率化」を追加した。(ア)「10項目の完全実施」、(イ)「生徒アンケートの電子化の拡大」の達成をめざしたい。「10項目」には、「学校に掛かってくる電話対応を勤務時間内にする」などがあり、そのための方策を練り、着実に実践していきたい。保護者へもメールやGoogleアカウントを活用した情報提供に切り替えるようにしていきたい。

他の項目については、令和4年度と大きく変わっていないが、目標やめざす数値は修正している。

・第2回 授業参観週間(12月)保護者アンケートについて

【首席A】

学校評価の視点から、保護者対象のアンケートについては、今年度はこれまでの紙のものに加え、Google Formにて回収するようにした。今回は参観者が少なく、Google Formによる回答は1件であった。記載内容は概ね好評であり、生徒の成長を喜んでいるものであった。今後もインターネットを介したアンケートを実施し、働き方改革につなげたい。

【D委員】

7つの授業について感想があるが、アンケートの回収は1件で合っているか。

【教務主任】

回答された保護者は2日間に渡り、じっくりと授業参観をされていた。

【首席A】

回答された保護者はPTAの研修や保護者の座談会等にも参加されていて、学校教育への理解や期待が高い人なのではないかと思われる。

・学校祭(11月)来場者アンケートについて

【首席A】

学校祭のアンケートは、Google Formによる回答が15件であった。記載内容は概ね好評であったが、運営に関するご意見もあったため、次年度に向けて参考にしたい。

【B委員】

保護者には Google Form の苦手な方もいるのではないかな。

【A委員】

保護者の中にはガラケー世代の方や、学校でスマホやタブレットについて教わっていない世代の方は一定数いるだろう。そのような保護者の ICT リテラシーの向上は、子どもの成長とっても不可欠である。PTA と連携して Google Form に関する講習会を催すなどして、アンケートを取りこぼすことのないようにしていくのはどうだろうか。今後の保護者案内文書のデータ化に向けては、保護者と教員の連携も必要になるだろう。

・令和 4 年度 3 年生（8 期生）の進路状況について

【進路指導主事】

就職を希望した 22 名の全員が公共職業安定所通じて就職することができた。卒業後すぐの就職を希望しない生徒のうち 3 名は職業能力開発校に進むこととなり、例年より多かった。また、障がい者支援施設に進む生徒は 2 名と少なかった。

【D委員】

特例子会社よりも一般企業が多いようだ。人手不足の介護や物流が多いようだが、過去の定着率はどうか。企業が採用するだけで、ほとんど仕事がないような状況でなく、戦力になっているなら安心できる。

【首席B】

介護については、入学直後は 5～9 人ほどが希望するが、実際に実習に行くと「しんどい」と気づき、繰り返し実習を行った 1～2 名が就職するため、離職は少なく、定着率が高いといえる。初任者研修後に国家資格の取得を求められるほど力のある卒業生もいる。物流については、「体を動かしたい」という生徒が希望して就職するため、離職は少ない。

【A委員】

生徒と業種の入念なマッチングが実習に生かされ、その成果として就職につながっている。

・その他、質疑応答

【B委員】

成人年齢が下がったことから、就職後における先生方のサポートがこれまで以上に必要になるだろう。卒業しても相談に行ける学校であってほしい。

【C委員】

就職において、一般雇用の方との人間関係はどうか。多くの人に守られている学校生活とのギャップに悩み、挫折感をもって辞める人はいるか。フォロー体制や受け皿はあるか。

【進路指導主事】

仕事の内容は好きでも、やはり人間関係で辞めるケースがある。卒業後のフォローとして、令和 4 年度は土曜日に 4 回の相談会を設けた。障害者就業・生活支援センターとの連携や企業と学校の相談の後に、部署の配置替えで留まったケースもある。今後は 1 年生の秋から始まる企業実習において、作業面だけに焦点を当てるのではなく、実際に働く環境面についても生徒がイメージできるような支援をすることが必要となる。

【D 委員】

「防災」、「安心・安全」に関連して、弊社の社員で、電車通勤時の災害等による「振り替え輸送」のメカニズムの理解が難しく、改札通過時にお金を払ってしまう人がいる。

【進路指導主事】

「振り替え輸送」に関する件は、本校の「ライフデザイン」や「社会」の授業で教えていかないといけないポイントであると感じた。事前の指導に加え、そのような事態が発生した後のフィードバックも重要だろう。

【F 委員】

子どもが企業実習に行っているとき、実際に電車が止まったことがあった。対応について連絡することが難しかった。できることなら、もう一度学校で 3 年間学んでほしい。就職後に人間関係でしんどかったら一度辞めて、障害者就業・生活支援センター等に相談して「自分に合うところは必ずある」の考えのもと、次の職場を探していくこともあるだろう。3 年間お世話になりました。

【E 委員】

生徒が希望する職種に就労していることは、先生方のご尽力がいかにすごいのか。就労移行支援事業所が増えているが、進む際の決定打は何か。

【進路指導主事】

教員が生徒の実態に合わせてマッチングを行い、事業所を生徒、保護者に見学を提案している。相談支援も使うこともある。2～3 年後になってほしい姿をイメージしてマッチングしている。

【A 委員】

令和 4 年度の評価から、ダンス部の活躍がすごい。高校文化祭に支援学校がで出ることの意味がある。実際のところ、社会には偏見や差別がまだある中で、支援学校が切り拓いて、生徒の活躍する場を見せることがいかに重要か。特別支援教育になり 10 数年、まだまだ世間は冷たい。卒業生が活躍する社会であってほしい。

先生方は令和 5 年度の仕事の効率を上げられるように、うまく時間とエネルギーを割いてほしい。期待している。

【校 長】

令和 4 年度の評価に関して、多くのご意見をいただいた。ご意見を校内でも共有していきたい。今回の入学者選抜の「1.28 倍」が続くようにしていきたい。

